

361 故山田喜之助氏追悼会

〔法学新報〕第24卷3(273)号 大正3年3月1日

○故山田喜之助氏追悼会 去月二十日は奠南山田先生の一周年に当れとも偶々未亡人は月初以来大患にて順天堂病院に入院加療中なれば中央大学関係の昵近諸氏は同日午後六時より同大学倶楽部に於て追悼の小集を催ふしたり倶楽部には先生の遺影及び塩谷、花井、三宅、大塚、佐藤諸氏の所蔵に係る遺墨十数点を掲げ中央大学及び山田家所蔵の遺著及其原稿等三十余種を陳列したれば来会者何れも其觀覽に余念なく元田通相、花井博士の如きは殊に感を深うし或は詩に或は書に故人の在世當時を説て聴者と共に暗涙に咽ひしか聽て食堂を開きて一同著席するや

伊藤悌治氏は開会の辞を述へ之に対して故人の令息山田紹之助氏の謝辞あり夫れより雑談の裏に食事了するやト部喜太郎氏は起て沈痛に故人清廉の徳を演述せられ次に花井博士は故人の性行を説き終りに山田家の現況を詳述し斉藤二郎氏は飲酒に關する故人の訓誨談あり土屋理喜治氏の追悼談あり三宅碩夫氏より建碑事業の経過報告あり又高橋捨六氏及土方博士の懷旧談あり何れも故人を偲ひ感慨胸に迫らざるなかりしか尚ほ別席に於て追懷談に時を移し其全く散会を告げたるは十一時頃なりし當日の出席者は山田紹之助氏を始め伊藤悌治、岩崎鉄次郎、岩田匡彦、花井卓藏、早川六郎、岡松参太郎、大塚勝二郎、河島台藏、川島仟司、高橋捨六、武田明、土屋理喜治、中村啓次郎、ト部喜太郎、山浦橋馬、小松林藏、永瀧久吉、安藤静、斉藤二郎、佐藤正之、三宅碩夫、土方寧、元田肇、須原大助等の諸氏なりし